

昭和54年5月20日

あっ、先生だ 疎開の18人お礼訪問

34年ぶりに旧友と対面



あっ、先生だ...
三十四年ぶりの対面(市役所前で)

戦争中、東京から葛塚へ集団疎開した当時の学童十七人と先生が、三十四年ぶりに市を訪れ、当時の地元の好意に對して感謝状や記念品を贈ったり、学友と旧交を温めたりしました。

この人たちは、東京都深川区(現在江東区)元加賀国民学校の人々です。五月四日、新堀駅に集合したこの人たちは、市のマイク



江東区長からのメッセージを讀む
村田先生(市役所禮堂で)

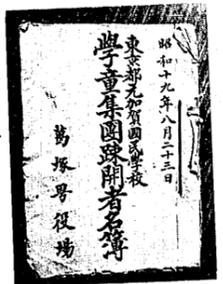
へも、元加賀国民学校の三年生から六年生まで百人余りが親の手元を離れて集団で疎開し、男子は北幸、女子は中常を宿舎として葛塚国民学校

で学び、二十一年の三月まで苦しい生活を送りました。当時の国をあげての食糧難で、三度の食事も満足に取れない時代でした。それに加えて十九年から二十年にかけての寒波で、ゴム長や防寒具の満足でない部会の子供たちにとっては、過酷な生活でした。しかも、部会と田舎の子供同士の間には、つらい思いも多かったと想像されます。

訪れた人のひとこと 迎えた人のひとこと

△児童の引率教師であった村田長治さん(鎌倉市)
「あの苦しかった時代に、ほんとうにありがたうございました。宿舎で勉強することはなく、学校が受け入れてくださったので、こちらに友だちが多かったです。当時の児童は第一の故郷を思っています。」
△疎開して来て、当時六年生だった鈴木雄美さん(神奈川県海老名市)
「もつと早くお礼にあがるべきでしたが、連絡のとれない人も多く、ほんとうにすみませんでした。」
△宿舎を提供した新井田豊三さん(常盤町)
「人手が不足で、人様の子供さんをあずかるのはお断りしたんですが...」
△食糧を調達するのに一番困りました。病気の子供が出て卵をさがすのに、農家を叩きまわったりもしました。
△ほんとうによく来てくれました。兵隊に行つた子供が帰つて来たときの気持とは、こんなもんなのでしょか。」

△当時、六年生の担任だった神田里さん(松ノ町)
「ほんとうによく来てくれました。当時は、あの人たちにあまりよくてやれなかったのが心残りでしたが、これで心のわだかまりのないものが解けたようです。
昔さんの温かい歓迎、良いい思い出を持って帰られたようです。」
△同級生を迎えた長谷川直芳さん(上大岡)
「来るという話を聞いて会ったのが楽しみでした。市役所の前で出迎えました。顔はすぐわかりました。
東京生まれで田舎を持たない人が二人来まして、今度は葛塚を田舎にして家族をつれて来たいと言っていました。私たちも同級会の際は通知することにしました。
喜んで帰ってもらってほんとうにうれいです。」



市役所に保存されていた名簿
「あっ、あの教室だ」「昔のままで」と、(葛塚小で)



当時の自分の席にすわって、思いは34年前に、(葛塚小で)

若者グループに 全国農業新聞賞

全国農業新聞社主催の「若い農業者グループ活動コンクール」で、木崎農協営農研究会(代表渡辺良男さん)が入賞しました。

交通災害共済の加入状況

「一日一円の会費でたすけあい」をキャッチフレーズに加入を呼びかけている交通災害共済は、四月三十日現在で二万六千四百七十八人が加入しました。

工事中です

(工事名、契約金額、請負者)
完成予定月日、施工地の順
契約金額百万円以上)

- 中葛山公園土留工事 百二十九万二千円、上杉組、六月四日、葛山
- 豊栄南運動公園整備工事 四百九十九万四千円、上杉組、六月四日、葛山
- 町浦川下水路ポンプ室工 二十五万四千円、磯田組、六月二十九日、上土地

校章めぐり

(4)葛塚小学校
葛塚小学校(西倉義雄校長 児童数五百六十九人、職員二十六人)
葛塚小学校は明治六年一月十三日新潟県第二十二大区小



八区葛塚校として、下町の日蓮宗儀善庵(現在の本立寺)で発足。昭和十三年十二月葛塚小学校を統合し、現在校舎新設。昭和五十一年四月一日葛塚東小学校を分離する。校章の由来
由来については定かでないが、校章には二枚の葛の葉をあしらひ、その葉は三種の神器の一つである八咫鏡を形どり、中心に葛の字を凶案化している。つまり、葛塚小学校の子どもは葛の字を表し、葛の葉のように互いにむつみ、助け合い、しかも葛のようにどこまでも希望に向かって進み鏡のように清い心でありたいということである。

昭和54年5月20日
第228号 豊栄広報